

「男性の幸せに関する意識調査」結果概要

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 服部秀昭）は、2012年3月に、全国の20歳～64歳の男性3,093人を対象に、“幸せ”をメインテーマとした調査を実施しました。

調査結果から、男性の意識、幸せ、妻と過ごす時間、オフタイムの楽しみ、将来の目標等について紹介します。

< 主な内容 >

< ページ >

◆ 仕事よりプライベート優先派が圧倒的。仕事も「やりがい」より「収入」重視	4
◆ 男性の幸せに必要なもの — 「お金」「良きパートナー」「健康」	7
◆ 男性の幸せ度は10点満点で平均6点、女性は平均7点	7
◆ 夫の幸せの鍵は「夫婦で一緒にいる」時間	8
◆ 休日と一緒に時間が3時間未満の夫婦、夫の1/3以上が離婚を意識	8
◆ 「一緒にいて楽しい」妻が、夫を幸せにする	9
◆ 休日にお金をかけること — 「外食・グルメ」「ショッピング」「音楽・DVD・ゲーム」	10
◆ 毎日晚酌する男性 — 50代既婚者は4割、20代独身は4%	10
◆ 将来の目標 — 20・30代は仕事重視、40・50代は健康重視	13
◆ 目指す資格 — 20・30代は情報技術者・簿記 40・50代は宅建、社労士、中小企業診断士	15

ご照会先

明治安田生活福祉研究所
生活設計研究部
森・横田・笹木

電話：03(3283)8642 FAX：03(3201)7837
Eメール：rbj@myilw.co.jp

< 調査の概要 >

(1) 調査対象： 全国の20歳以上64歳以下の男性

(2) 調査方法： WEB アンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）

(3) 調査時期： 2012年3月2日～3月4日

(4) 回収数： 3,093人

(5) サンプルの属性

(上段：人数、下段：%)

		20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	計
配偶者あり		5	77	184	251	284	249	259	305	88	1,702
		0.2	2.5	5.9	8.1	9.2	8.1	8.4	9.9	2.8	55.0
配偶者 なし	結婚 経験 なし	293	253	174	186	123	101	60	37	7	1,234
		9.5	8.2	5.6	6.0	4.0	3.3	1.9	1.2	0.2	39.9
	結婚 経験 あり	0	5	15	14	30	18	33	34	8	157
		0.0	0.2	0.5	0.5	1.0	0.6	1.1	1.1	0.3	5.1
計		298	335	373	451	437	368	352	376	103	3,093
		9.6	10.8	12.1	14.6	14.1	11.9	11.4	12.2	3.3	100.0

(6) サンプル数の補正について

サンプルは男性の5歳階級別人口比（60～64歳を除く）で収集しており、その他の属性等によるサンプル数の補正は行っていません。

< 目次 >

1. 何を優先したいか —— 「仕事」 or 「プライベート」、「収入」 or 「やりがい」 …… P. 4
 - (1) 仕事よりプライベート優先派が圧倒的。仕事も「やりがい」より「収入」重視派が主流
 - (2) 女性と比べると男性は…「社会貢献」「仕事」優先、仕事は「収入重視」が高め

2. 男性の幸せとは …… P. 6
 - (1) 男性にとっての「幸せ」
 - (2) 幸せを感じる時、幸せのために必要なもの
 - (3) 男性の幸せ度は10点満点で平均6点、女性は平均7点

3. 夫婦関係と夫の幸せ観 …… P. 8
 - (1) 夫の幸せの鍵は「夫婦で一緒にいる」時間
 - (2) 休日一緒にいる時間が3時間未満の夫婦、夫の1/3以上が離婚を意識
 - (3) 休日に夫婦で食卓を囲めれば、夫は幸せ
 - (4) 「一緒にいて楽しい」妻が、夫を幸せにする

4. オフタイムの楽しみ …… P. 10
 - (1) 休日にお金をかけて行っていること
 - (2) お酒の嗜好とライフスタイル

5. 目標としていること、目標に向けて実践していること …… P. 13
 - (1) 将来の目標
 - (2) 目標に向けて実践していること
 - (3) 取得を目指している資格

1. 何を優先したいか —— 「仕事」 or 「プライベート」、「収入」 or 「やりがい」

- 仕事や社会貢献も大事、でも、やっぱり「自分の生活」を優先したい
- 20代の夫は、仕事より夫婦の生活が大切？
- 男性は女性より、「社会貢献」や「仕事」を優先する意識がちょっと高め

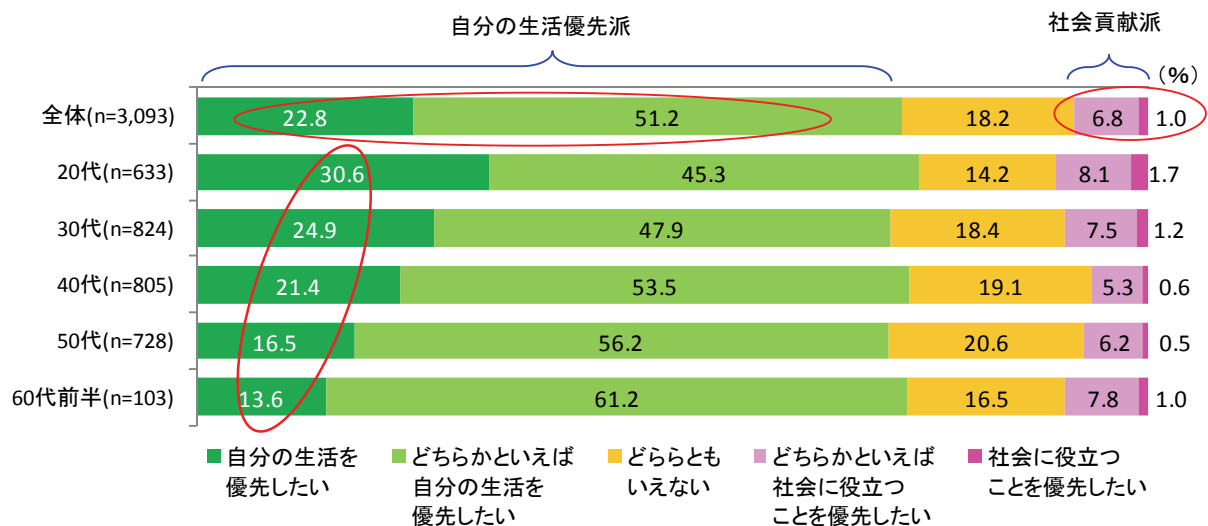
(1) 仕事よりプライベート優先派が圧倒的。仕事も「やりがい」より「収入」重視派が主流

① 「自分の生活を優先」 > 「社会に役立つことを優先」

自分の生活優先派（「自分の生活を優先」+「どちらかといえば自分の生活を優先」）が74.0%と4分の3を占め、社会貢献派（「社会に役立つことを優先」+「どちらかといえば社会に役立つことを優先」）はわずか7.8%でした。自分の生活優先派全体では年代ごとの差はありませんが、はっきり「自分の生活を優先したい」と主張する割合は、若い世代ほど高い傾向です（「自分の生活を優先」のみの回答は、20代30.6%、30代24.9%、40代21.4%、50代16.5%）。

未婚者のほうが既婚者よりも「自分の生活を優先したい」人の割合が高い（未婚者27.7%、既婚者19.6%）ものの、一方で、社会貢献派（「社会に役立つことを優先したい」+「どちらかといえば社会に役立つことを優先したい」）も、未婚者が既婚者よりもやや高い結果が見られました（未婚9.1%、既婚6.9%）。独身男性の中にはボランティア活動等に強い関心を持って取り組み、独身を続けている人もいるのではないのでしょうか。

図表 1-1 「自分の生活を優先したい」か「社会に役立つことを優先したい」か

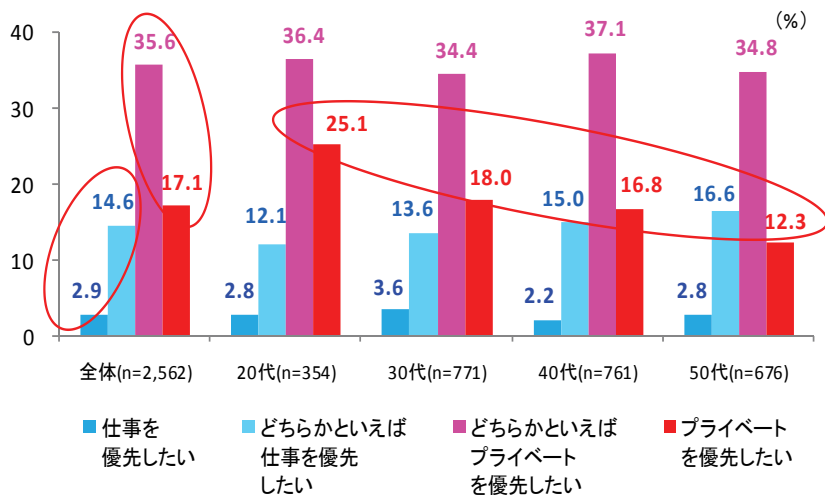


② 「プライベート優先」 > 「仕事優先」

20～50代にきいた「仕事優先かプライベート優先か」の質問では、プライベート優先派（「プライベート優先」+「どちらかといえばプライベート優先」）が52.7%で、仕事優先派（「仕事優先」+「どちらかといえば仕事優先」）の17.5%を大きく上回りました。

年代別では、上記①の設問と同様に若い世代ほど「プライベートを優先したい」とはっきり主張する割合が高く、中でも、20代既婚者の高さが目立ちます。若い夫には、仕事よりも夫婦の生活を重視したい人が多いようです。

図表 1-2 「仕事を優先したい」か「プライベートを優先したい」か
（「どちらともいえない」は非表示）



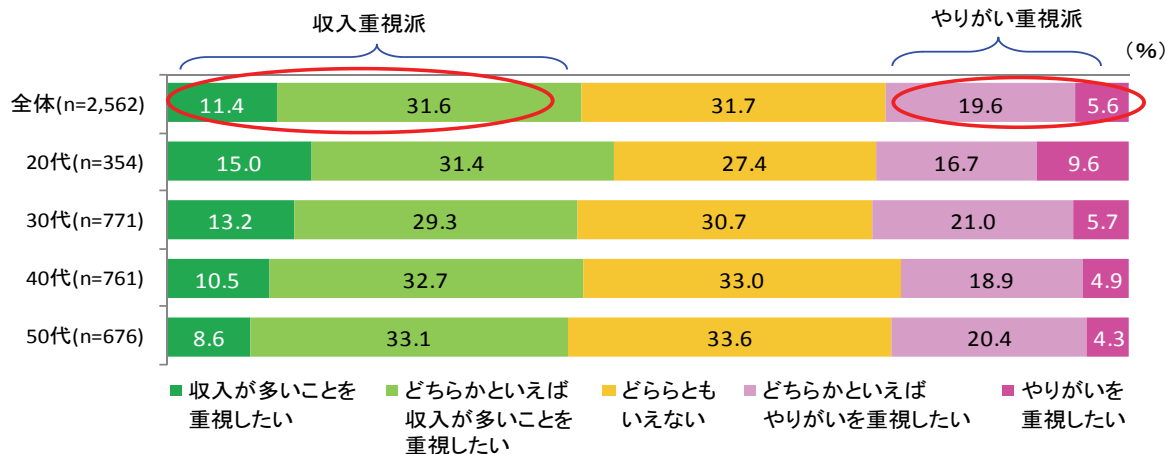
図表 1-3 既婚者のうち「プライベートを優先したい」割合



③ 仕事は、「収入重視」 > 「やりがい重視」

20～50 代での収入重視派（「収入重視」 + 「どちらかといえば収入重視」）は 43.0%で、やりがい重視派（「やりがい重視」 + 「どちらかといえばやりがい重視」）の 25.2%を約 18 ポイント上回りました。なお、既婚者は家族を養う責任からか、未婚者よりも収入を重視したい人が多く、特に平均給与が低い 20 代でその傾向が強く見られました。

図表 1-4 仕事は「収入が多いことを重視したい」か「やりがいを重視したい」か



(2) 女性と比べると男性は…「社会貢献」「仕事」優先、仕事は「収入重視」が高め

2011 年 8 月に当社が実施した女性調査との対比でみると、「自分の生活優先か社会貢献優先か」の質問では、「自分の生活優先派」の割合は女性のほうがやや高め。プライベートより「仕事優先」とする割合は男性のほうがやや高い結果です。また、「仕事は収入重視かやりがい重視か」の質問で「収入重視」と答えた割合は、男性が女性を上回っています。

図表 1-5 意識・スタイルの男女比較

項目		男性	VS	女性
自分の生活か社会貢献か	自分の生活優先派	74.0	<	77.7
	社会に貢献したい派	7.7	>	4.9
仕事かプライベートか	仕事優先派	17.5	>	12.2
	プライベート優先派	52.7	<	57.0
収入かやりがいか	仕事は収入重視派	43.0	>	36.1
	仕事はやりがい重視派	25.2	≒	25.3

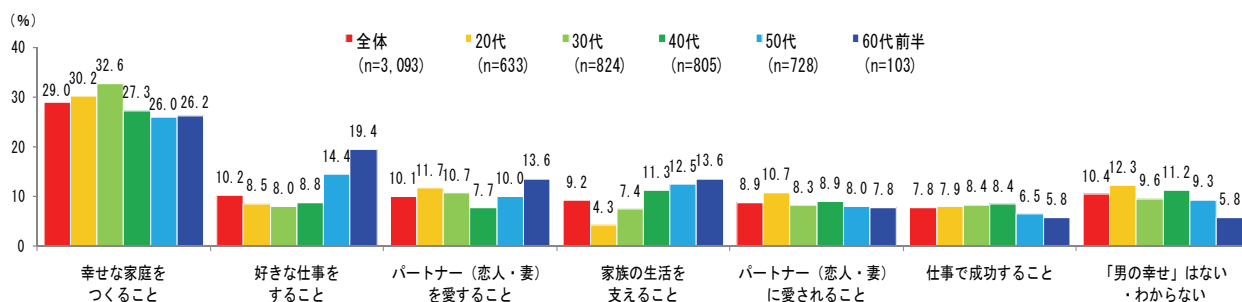
2. 男性の幸せとは

- 「男性」の幸せ — トップは「幸せな家庭を作ること」
- 「男性の幸せ」に必要なもの — 「お金」「良きパートナー」「健康」がトップ3
- 10点満点での幸せ度は — 男性 6.01点 女性 6.94点

(1) 男性にとっての「幸せ」

「あなたにとって『男の幸せ』とは何だと思うか」への回答では、「幸せな家庭をつくること」(29.0%)が頭一つ抜けています。次いで「好きな仕事をする事」(10.2%)、「パートナーを愛すること」(10.1%)、「家族の生活を支えること」(9.2%)、「パートナーに愛されること」(8.9%)。この中で「好きな仕事をする事」と「家族の生活を支えること」は、若い年代では相対的に低く40代以降で逡増していることから、経験を積んで実感する項目と言えそうです。一方、「幸せな家庭をつくること」「パートナーを愛すること」「パートナーに愛されること」については、年代別で大きな違いは見られません。

図表 2-1 「男の幸せ」とは

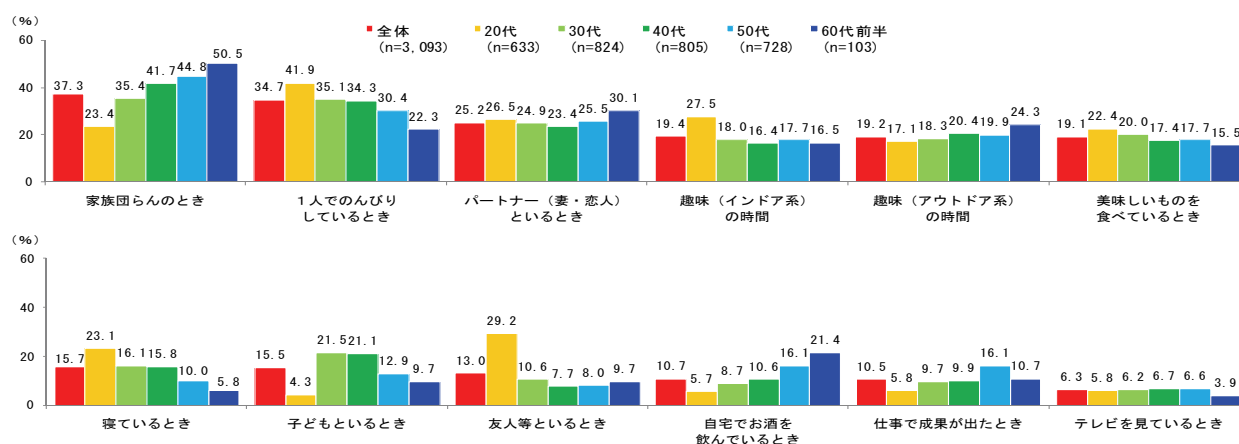


(2) 幸せを感じる時、幸せのために必要なもの

① 幸せを感じる時のトップは「家族団らん」

「普段の生活で『幸せ』を感じる時」は、「家族団らんのとき」が37.3%と最も多く、次いで「1人でのんびりしているとき」(34.7%)、「パートナー(妻・恋人)といるとき」(25.2%)が続いています。年代別では、「家族団らんのとき」「仕事で成果が出たとき」「自宅でお酒を飲んでいるとき」などは年代が高いほど割合が高くなり、「1人でのんびりしているとき」「友人等といるとき」は逆に若い年代ほど割合が高い傾向です。

図表 2-2 普段の生活で幸せを感じる時(3つ以内)



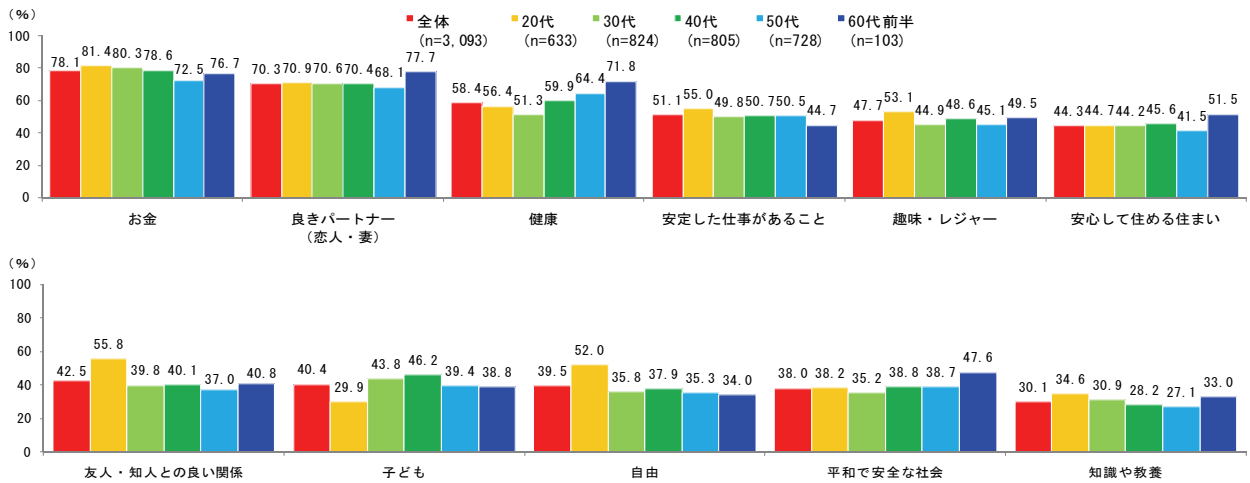
② 「幸せ」のために必要なものは、男女とも「お金」、「良きパートナー」、「健康」がベスト3

「幸せのために必要と考えるもの」を複数回答で答えてもらったところ、「お金」(78.1%)、「良きパートナー(妻・恋人)」(70.3%)、「健康」(58.4%)、「安定した仕事があること」(51.1%)が5割以上でした。女性調査(2011年8月実施)でも上位3項目は「お金」(88.5%)、「健康」(79.8%)「良きパートナー(夫・恋人)」(79.1%)と、男性と共通の項目でした。

なお、選んだ割合が半数を超えた項目は、男性調査が4項目であるのに対し、女性調査は9項目。女性のほうが、幸せのために求めるものがちょっぴり多いことがわかりました。

また、幸せのために最も必要なものを1つだけ選択する設問では、トップは「お金」ではなく、「良きパートナー」でした(良きパートナー29.5%、お金21.4%)。

図表 2-3 「幸せ」のために必要だと思うものすべて(複数回答)

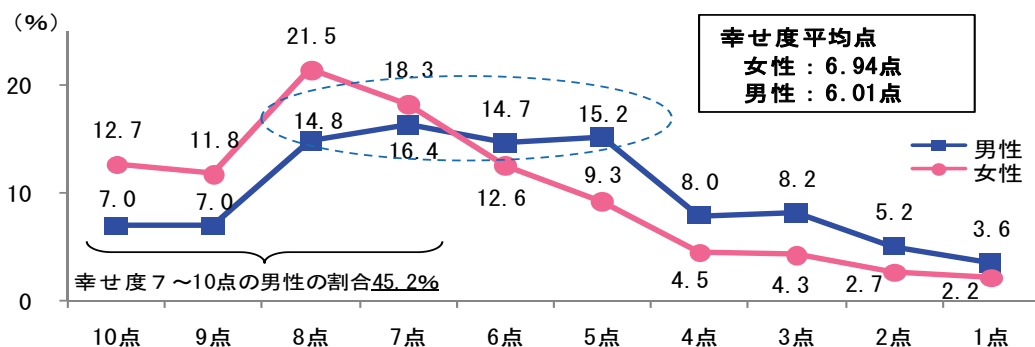


(3) 男性の幸せ度は10点満点で平均6点、女性は平均7点

「現在のあなたの幸せ度は10点満点で何点ですか」の質問については、20~50代の幸せ度の平均点は6.01点であり、女性調査での幸せ度6.94点を1点近く下回りました。女性が8点を頂点とした山型であるのに対し、男性は5~8点に各15%程度分布する丘状というように違いが見られました。幸せ度7点以上の割合も男性が女性を10ポイント程度下回りました(男性45.2%、女性64.3%)。

男性は「仕事」や「家族の生活を支える」といった局面で辛さを感じる人が多いのでしょうか。あるいは、男性は現状に満足せずさらに高い目標や幸せを目指す人が多いという理由だったら嬉しいですね。

図表 2-4 男女別幸せ度分布(20~50代)



3. 夫婦関係と夫の幸せ観

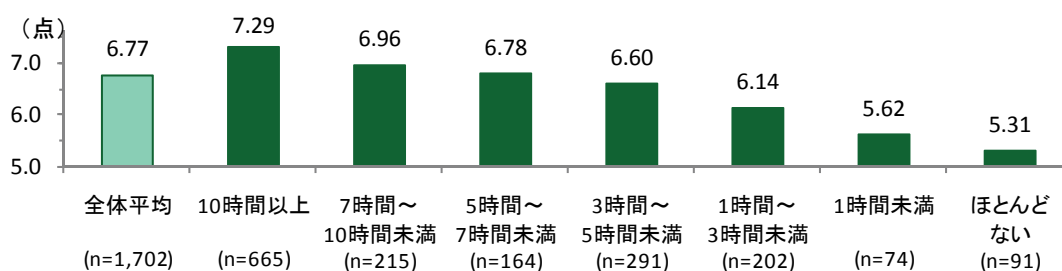
- 夫の幸せの鍵は「夫婦で一緒にいる」時間。休日の3時間がボーダーライン？
- 「一緒にいて楽しい」妻が、夫を幸せにする

(1) 夫の幸せの鍵は「夫婦で一緒にいる」時間

夫婦が一緒にいる時間と夫の幸せ度には、はっきりした関係が見られました。

休日に5時間以上一緒に過ごす夫婦では、夫の幸せ度は全体の平均(6.77点)を上回っており、とくに10時間以上をともに過ごしている夫の幸せ度(7.29点)の高さが際立っています。逆に、3時間に満たない場合、夫は幸せを感じにくいようです。

図表 3-1 “休日に夫婦が一緒に過ごす時間”と“夫の幸せ度”



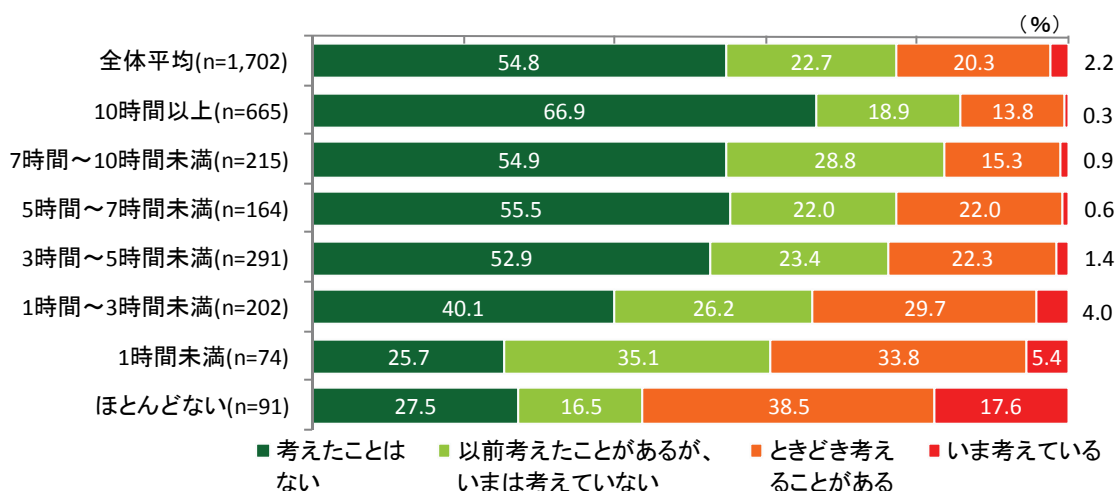
(2) 休日に一緒にいる時間が3時間未満の夫婦、夫の1/3以上が離婚を意識

一緒に過ごしている時間は、夫婦関係の危険度とも無関係ではありません。

休日に10時間以上一緒に過ごしている夫婦の場合、夫の3人に2人が「離婚を(一度も)考えたことはない」と答え、離婚を(ときどきも含め)考えている夫は1割強にすぎません。ところが、一緒にいる時間が3時間を切ると、離婚を一度も考えたことがない夫の割合は半数を大きく割り込んでしまい、逆に3人に1人以上が離婚をときどきあるいはいま現に考えているのです。

一緒に過ごす時間が短くなることと、離婚を考えることのどちらが先かは、各夫婦の事情により異なるでしょうが、夫婦が良い関係を保っていくために“一緒にいる時間”を大切にすることが重要だということはできそうです。

図表 3-2 “休日に夫婦が一緒に過ごす時間”と“離婚を考えること”

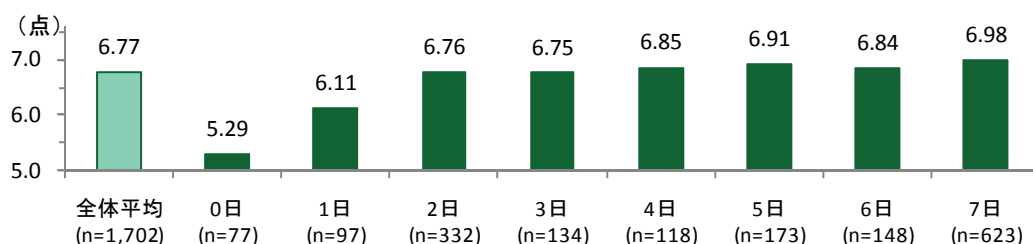


(3) 休日に夫婦で食卓を囲めれば、夫は幸せ

1週間のうち夫婦で夕食を一緒にとる日数と、夫の幸せ度の関係を見てみました。毎日一緒に夕食をとる夫の幸せ度(6.98点)が最も高いものの、2日以上であればさほど差は見られません。平日は別々でも、休日に一緒に食卓を囲めれば、幸せを感じられるようです。

お互いの休日が一致しない夫婦も、なんとかか日程を調整して、週に1日でも2日でも食事を共にできるように工夫してはどうでしょうか。

図表 3-3 “1週間のうち夫婦で一緒に夕食をとる日数”と“夫の幸せ度”



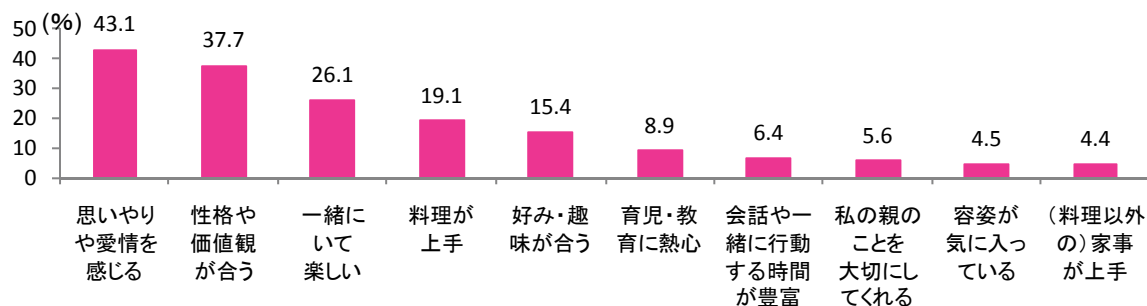
(4) 「一緒にいて楽しい」妻が、夫を幸せにする

4人中3人が、現在の妻に満足しています(「満足」26.8%、「まあ満足」47.2%、「どちらともいえない」13.2%、「あまり満足していない」8.6%、「満足していない」4.3% <図表は割愛>)。

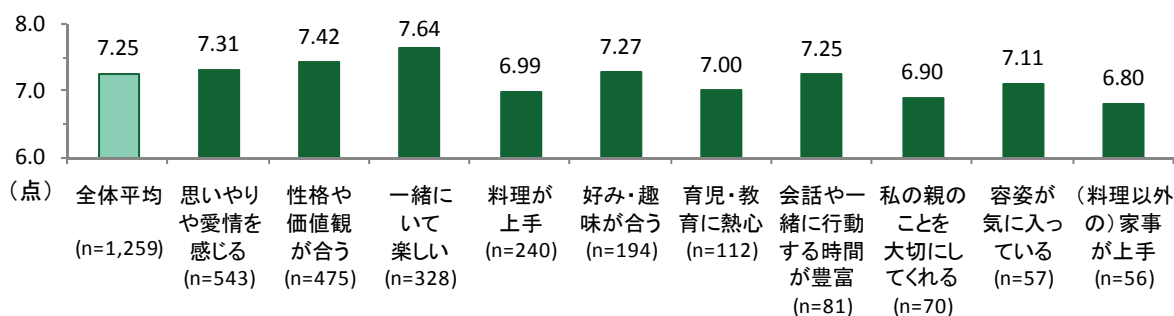
満足と答えた人にその理由を2つまで挙げてもらったところ、「思いやりや愛情を感じる」(43.1%)、「性格や価値観が合う」(37.7%)、「一緒にいて楽しい」(26.1%)といった“性格”に通じる理由が上位を占めました。

挙げた理由別に幸せ度をみると、最も高かったのは「一緒にいて楽しい」(7.64点)。料理や家事を挙げた人の幸せ度は相対的に低く、精神的な面が大切であることがわかりました。

図表 3-4 妻に満足している理由(妻について「満足」「まあ満足」と回答した男性。2つ以内)



図表 3-5 “妻に満足している理由”と“夫の幸せ度”



4. オフタイムの楽しみ

- 休日は、「外食・グルメ」「ショッピング」「音楽・DVD・ゲーム」「読書」
— 20代は「友人と遊ぶ」「デート」、30代は「グルメ」「ショッピング」、
50・60代は「小旅行」
- 毎日晚酌する男性 — 50代既婚者は4割、20代独身は4%

(1) 休日にお金をかけて行っていること

「ふだんの休日にお金をかけて行っていること」(複数回答)については、「外食・グルメ」(24.6%)、「ショッピング」(23.1%)、「音楽・DVD・ゲーム等」(20.7%)、「読書」(15.0%)、「友人と遊ぶ」(12.5%)がトップ5です。「特にない」という方も18.1%ありました。

年代別では、全体平均より高い特徴が見られるものとして、20代は「友人と遊ぶ」「デート」「音楽・DVD・ゲーム等」、30代は「外食・グルメ」「ショッピング」、50代・60代は、「映画・コンサート」「小旅行」などがあります。

図表 4-1 ふだんの休日にお金をかけて行っていること(3つ以内・上位10項目を抜粋) (%)

	全体 (n=3,093)	20代 (n=633)	30代 (n=824)	40代 (n=805)	50代 (n=728)	60代前半 (n=103)
1位	外食・グルメ 24.6	友人と遊ぶ 31.3	外食・グルメ 29.9	外食・グルメ 24.8	外食・グルメ 22.1	外食・グルメ 21.4
2位	ショッピング 23.1	デート 28.3	ショッピング 29.0	ショッピング 22.7	ショッピング 18.8	小旅行 19.4
3位	音楽・DVD・ゲーム 20.7	音楽・DVD・ゲーム 27.5	音楽・DVD・ゲーム 18.4	音楽・DVD・ゲーム 20.0	音楽・DVD・ゲーム 18.4	音楽・DVD・ゲーム 18.4
4位	読書 15.0	ショッピング 22.4	読書 14.0	読書 14.5	映画・コンサート 16.8	映画・コンサート 17.5
5位	友人と遊ぶ 12.5	外食・グルメ 20.7	デート 13.1	パチンコ・競馬 11.9	読書 14.6	読書 16.5
6位	デート 11.6	読書 17.2	パチンコ・競馬 13.1	アウトドア(ドライブ等)11.6	小旅行 12.2	ショッピング 14.6
7位	パチンコ・競馬 11.2	映画・コンサート 10.1	友人と遊ぶ 12.1	スポーツ 10.6	アウトドア(ドライブ等)12.0	パチンコ・競馬 14.6
8位	映画・コンサート 10.9	スポーツ 9.5	スポーツ 10.8	小旅行 9.9	スポーツ 11.5	アウトドア(ドライブ等)10.7
9位	スポーツ 10.6	パチンコ・競馬 9.2	小旅行 10.3	映画・コンサート 9.6	パチンコ・競馬 9.5	スポーツ 10.7
10位	小旅行 10.0	スポーツ観戦 6.0	アウトドア(ドライブ等) 7.3	デート 5.6	スポーツ観戦 5.8	友人と遊ぶ 6.8

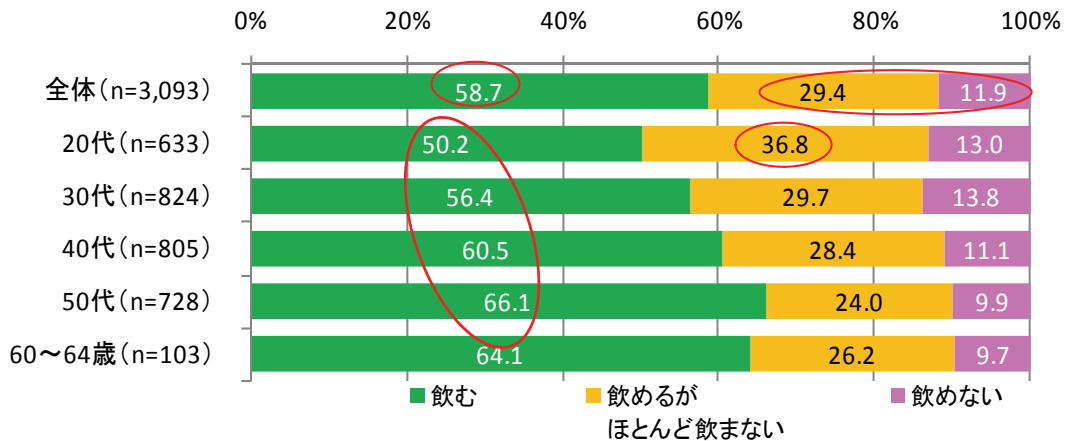
(2) お酒の嗜好とライフスタイル

お酒を「飲む」人の割合は6割弱(58.7%)でした。一方、「(飲めるが)ほとんど飲まない」と「飲めない」を合わせると4割以上(41.3%)に達しています。以下、様々な視点でお酒の嗜好について紹介します。

① 年代別・未既婚別

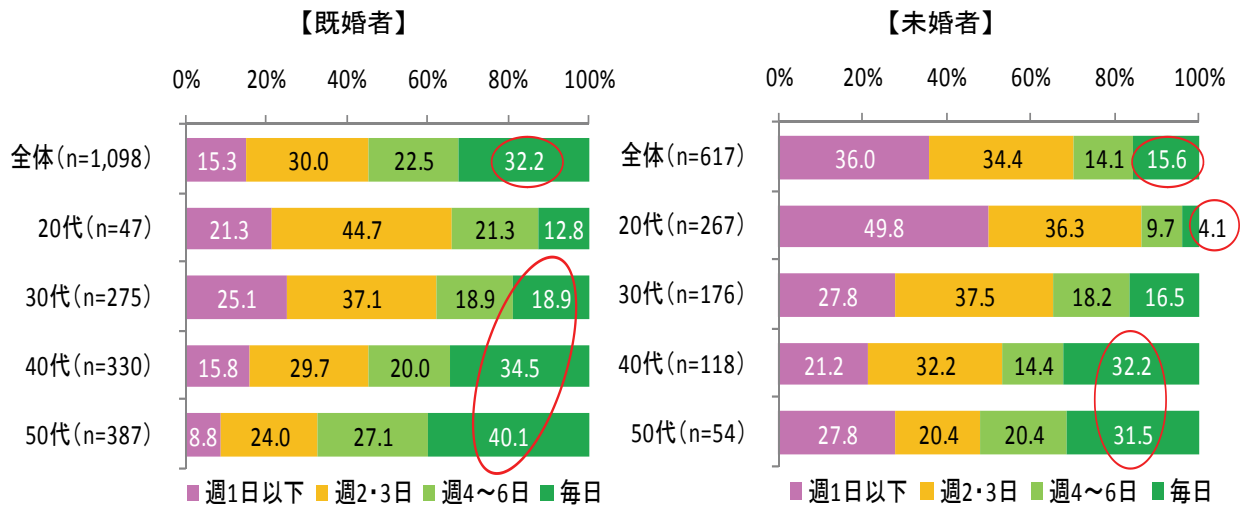
年代別では、20代で「飲む」の回答が約半数(50.2%)と最も低く、年代が上がるほど「飲む」割合が高くなる傾向です。20代は「飲めるがほとんど飲まない」の割合も高く、20代では「お酒以外」に楽しみを見出している人も多いのでしょうか。「飲む」割合はどの年代でも未婚者が既婚者よりも低く、全体では既婚者が64.5%であるのに対し、未婚者は50.0%にとどまっています。

図表 4-2 お酒を飲むか



また、お酒を「飲む」人に週何日くらい飲むかたずねたところ、既婚者で「毎日」が 32.2% であるのに対し未婚者は 15.6% と半分の水準で、未婚者よりも既婚者に、“晩酌” を楽しみとしている人が多いようです。また、毎日飲む人は未婚者、既婚者とも 40 代以上では 3 割を上回りますが、20・30 代では 2 割を下回っており、特に 20 代未婚者は 4.1% という低さです。

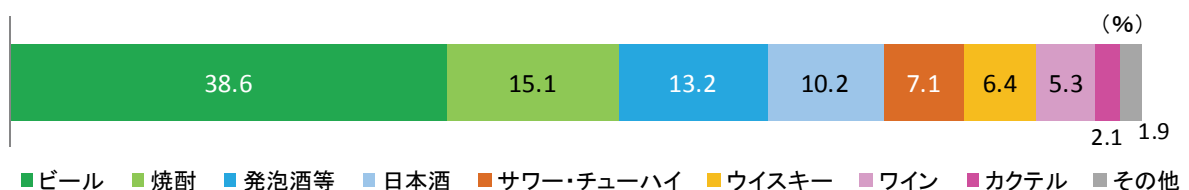
図表 4-3 週何日くらいお酒を飲むか(「飲む」人が対象。全体には 60~64 歳も含む)



② どんな種類のお酒を好むか

一番好きなお酒は、ビール (38.6%)、焼酎 (15.1%)、発泡酒等 (13.2%)、日本酒 (10.2%)、サワー・チューハイ (7.1%)、ウイスキー (6.4%)、ワイン (5.3%) の順で、ビールは 2 位の焼酎の 2.5 倍の支持を得ています。

図表 4-4 一番好きなお酒と支持率(上位 8 項目)

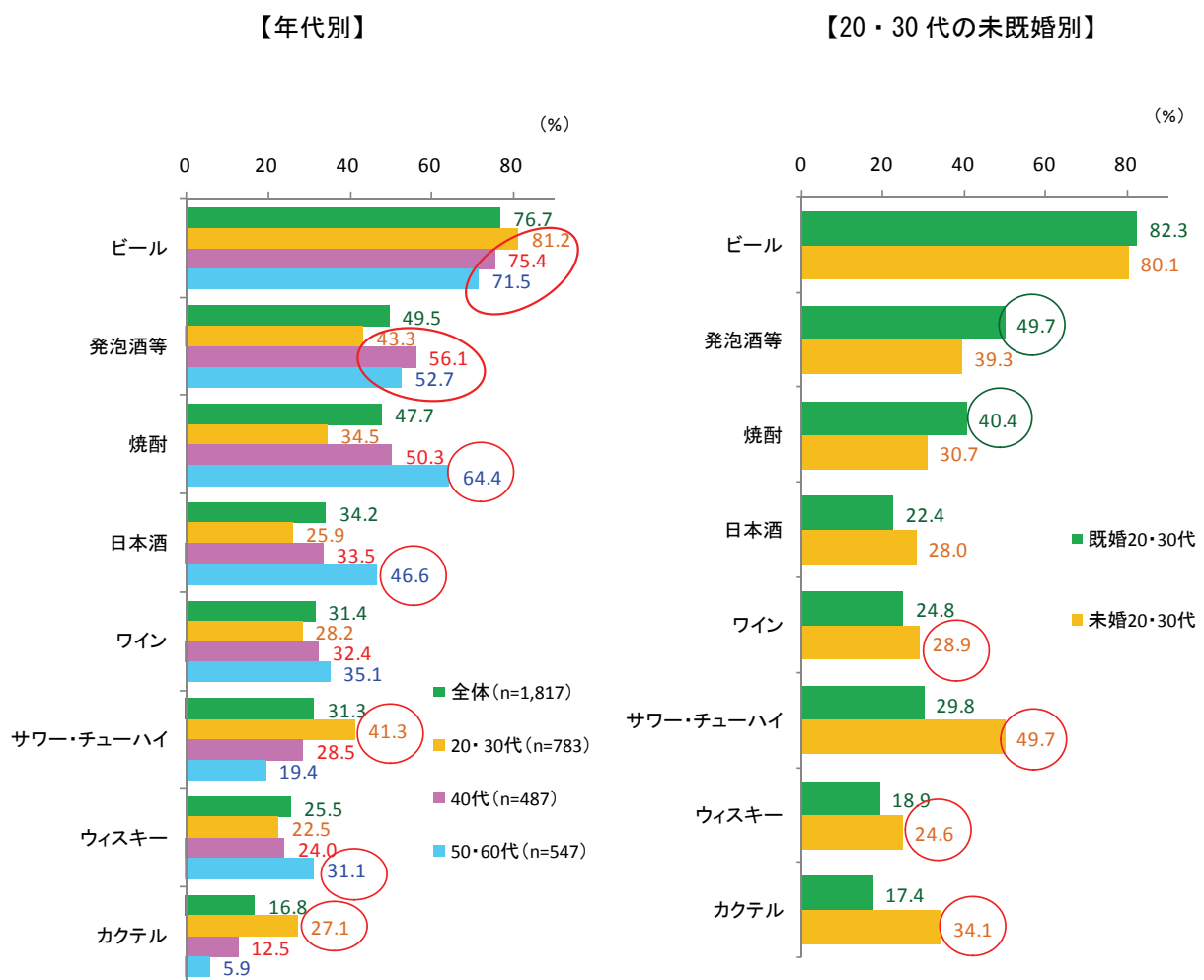


飲むことが多いお酒（複数回答）も、ビール（76.7%）、発泡酒等（49.5%）、焼酎（47.7%）、日本酒（34.2%）、ワイン（31.4%）、サワー・チューハイ（31.3%）と順位は似たような傾向ですが、トップのビールと2位と支持率の差は1.5倍程度です。“一番好きなのはビールだけれど、日頃は発泡酒でガマン”という人も多いでしょう。

年代別では、20・30代で「ビール」「サワー・チューハイ」「カクテル」が全体平均以上で、50代以上では「焼酎」「日本酒」「ウイスキー」が高くなっています。

「ビール」と「発泡酒等」に絞って見ると、お酒を飲む頻度が高い40代以上ではビールよりも価格が安い「発泡酒等」が平均よりも高い結果となっています。また、20・30代を対象に未既婚別に見てみると、既婚者のほうが未婚者よりも「発泡酒等」が相対的に高い傾向です。既婚者は晩酌の頻度が高いうえ、世帯として様々な生活費もかかるため、低価格の「発泡酒等」が好まれやすいのでしょう。

図表 4-5 どのようなお酒を飲むことが多いか（複数回答）



5. 目標としていること、目標に向けて実践していること

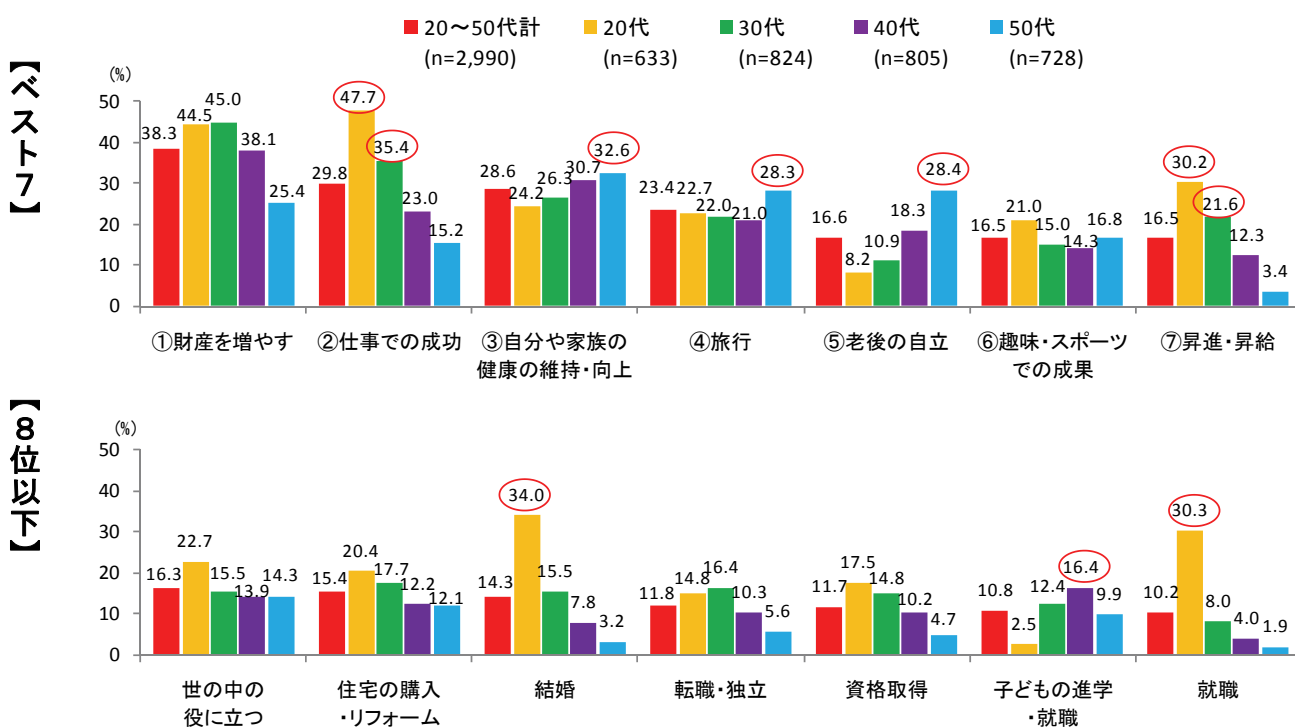
- 将来の目標は「財産を増やす」「仕事での成功」「自分や家族の健康の維持・向上」
— 20・30代は仕事重視、40・50代は健康重視
- 自分磨きには「読書」「資格取得のための学習」「仕事への全力投球」
— 資格取得の定番は各年代とも「語学検定」。20・30代は「情報技術者」「簿記」、
40・50代は「宅建」「社労士」「中小企業診断士」を目指す人も

(1) 将来の目標

複数回答でのベスト7は、①財産を増やす (38.3%)、②仕事での成功 (29.8%)、③自分や家族の健康の維持・向上 (28.6%)、④旅行 (23.4%)、⑤老後の自立 (16.6%)、⑥趣味・スポーツでの成果 (16.52%)、⑦昇進・昇給 (16.49%) となっています。

年代別では、20代で「就職」「結婚」「仕事での成功」「昇進・昇給」が平均を大きく上回り、30代も「仕事での成功」「昇進・昇給」は平均を上回っています。40代は「子どもの進学・就職」が平均より高く、50代では「老後の自立」「旅行」「自分や家族の健康の維持・向上」が高い傾向です。

図表 5-1 将来の目標 (複数回答)

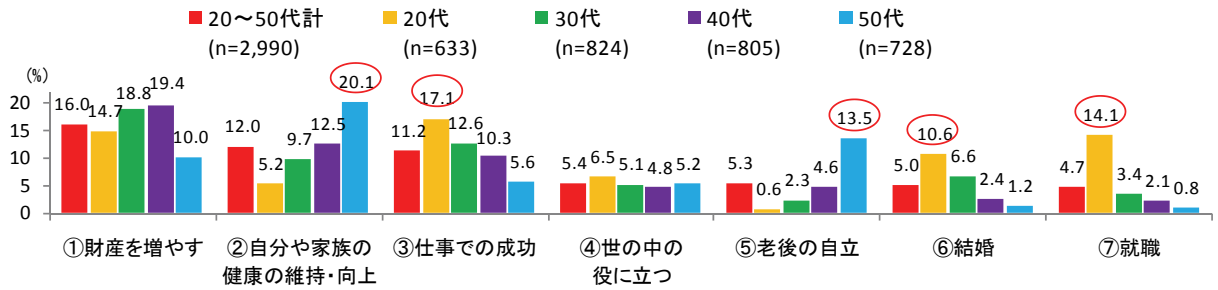


「将来の一番の目標としていること」のトップ3も同じ項目で①財産を増やす (16.0%)、②自分や家族の健康の維持・向上 (12.0%)、③仕事での成功 (11.2%) となっています。

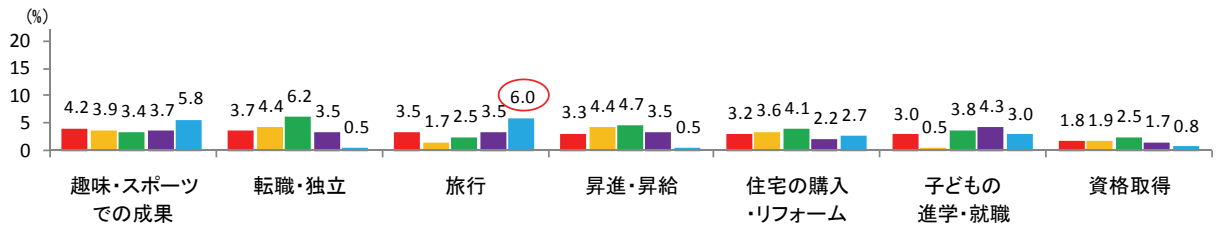
年代別では、20代は「就職」「結婚」「仕事での成功」が平均より5ポイント以上高く、50代は「自分や家族の健康の維持・向上」「老後の自立」が平均よりかなり高い結果です。50代は「旅行」とする回答も平均を上回っています。

図表 5-2 将来の一番の目標としていること

【ベスト7】



【8位以下】

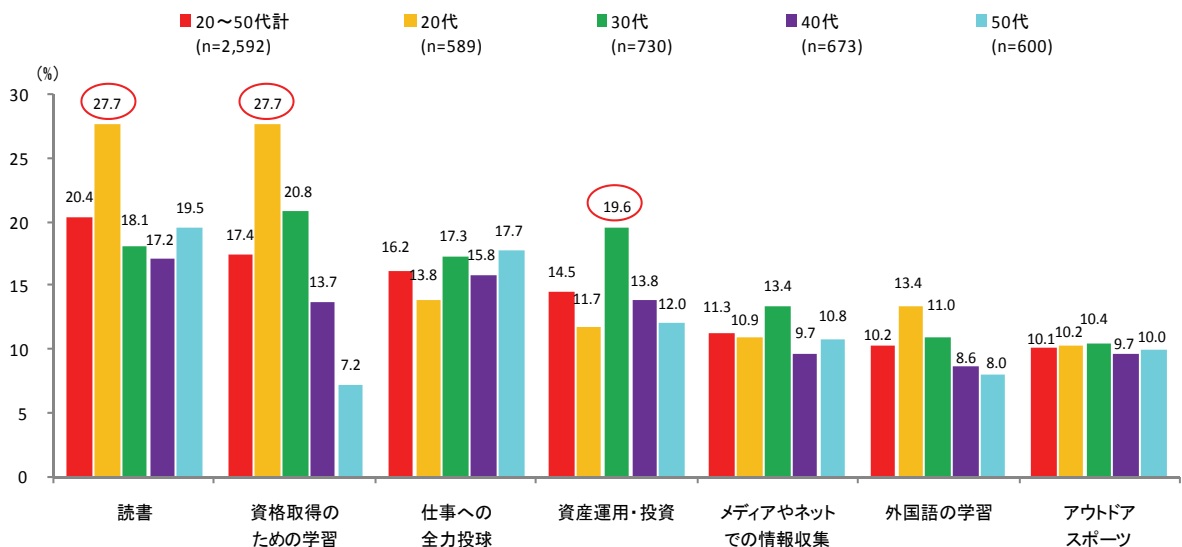


(2) 目標に向けて実践していること

「将来の目標に向けて、自分を磨くために実施していること」がある人は約7割、ない人は約3割でした。実施していることの上位は、①読書 (20.4%)、②資格取得のための学習 (17.4%)、③仕事への全力投球 (16.2%)、④資産運用・投資 (14.5%)、⑤メディアやネットでの情報収集 (11.3%)、⑥外国語の学習 (10.2%)、⑦アウトドア・スポーツ (10.1%) となっています。

年代別では、20代が「資格取得のための学習」「読書」が平均より5ポイント以上高く、30代は「資産運用・投資」が平均より5ポイント高くなっています。

図表 5-3 将来の目標に向けて実施していること



(3) 取得を目指している資格

「語学検定（英検・TOEIC 等）」20.6%、「情報技術者」15.4%、「簿記」13.8%、「社会保険労務士」8.8%、「FP 技能士等」8.8%、「行政書士」7.9%、「宅建」7.5%、「税理士」6.1%、「中小企業診断士」5.0%、「公務員」5.0%が取得を目指している資格のベスト10です。

20代は「語学検定（英検・TOEIC 等）」「情報技術者」「簿記」といった仕事の基礎となるような資格が平均より高い割合です。40代は「FP 技能士等」「宅建」「行政書士」、50代は「社会保険労務士」「宅建」「中小企業診断士」などが平均より高く、若手に比べて経験を積んだ層がより専門性の高い資格に挑戦する傾向が見えます。

図表 5-4 取得を目指している資格（上位10項目） (％)

	20～50代計(n=450)	20代(n=163)	30代(n=152)	40代(n=92)	50代(n=43)
1位	語学検定 20.6	語学検定 25.8	語学検定 20.4	語学検定 14.1	社会保険労務士 18.6
2位	情報技術者 15.4	情報技術者 20.9	情報技術者 13.8	簿記 14.1	語学検定 16.3
3位	簿記 13.8	簿記 20.9	社会保険労務士 11.8	FP技能士等 12.0	宅建 14.0
4位	社会保険労務士 8.8	公務員 12.9	税理士 9.2	宅建 12.0	情報技術者 11.6
5位	FP技能士等 8.8	FP技能士等 8.6	行政書士 8.6	情報技術者 9.8	中小企業診断士 11.6
6位	行政書士 7.9	行政書士 6.7	簿記 7.9	行政書士 9.8	簿記 9.3
7位	宅建 7.5	漢字検定 6.1	FP技能士等 7.9	税理士 9.8	FP技能士等 7.0
8位	税理士 6.1	司法試験 4.9	宅建 6.6	社会保険労務士 8.7	行政書士 7.0
9位	中小企業診断士 5.0	宅建 4.3	中小企業診断士 5.9	司法書士 7.6	マンション管理士 7.0
10位	公務員 5.0	司法書士 3.7	司法書士 5.3	漢字検定 6.5	危険物取扱者 4.7